草加八潮地域連携呼吸器研究会（SYRC-R:シルク・アール）

事務局：草加内科呼吸ケアクリニック
〒340-0043 草加市草加1-4-5
TEL 048-999-5941
FAX 048-999-5986
（事務局が変わりました）

代表世話人・会計：高木　寛
（高木クリニック）
世話人：加藤　貴紀
（かとうファミリークリニック）
平田　大介
（草加八潮医師会学術担当理事・平田クリニック）
篠原　浩一
（八潮中央総合病院）
広報・編集：　新　謙一
（草加内科呼吸ケアクリニック・前東京医科歯科大学臨床教授）
看護・介護部門世話人
花木　美穂子
（わーくわっく草加）
須鴨　義夫
（一正堂薬局第二支店）
神津　陽子
（訪問看護ステーションゆりの木）
髙橋　克幸
（獨協医科大学越谷病院リハビリテーション部）
新　智美
（草加内科呼吸ケアクリニック）
監査：須鴨　義夫
（一正堂薬局第二支店）
会報著作・製作：新　謙一

シルク・アール：質の高い滑らかな地域連携に！

草加八潮地域連携呼吸器研究会（英名：Soka-Yashio Regional Conference of Respiratory Disease）は頭文字をとりSYRC-Rと表記し、「シルク・アール」と発音します。絹（シルク）の様に質の高い滑らかな連携がある（アール）ことを目指しての語呂合わせのネーミングです。
名前負けしないように継続発展させていきたいと考えています。
皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

SYRC-Rは草加八潮の周辺地域からのご参加も歓迎致します

予告：宮崎の「かあさんの家」の市原美穂氏が来年6月25日(水)の第15回SYRC-Rに来ます！

核家族化の果てに老老介護を始めとする限られた家族による介護が常態化して介護福祉士（ヘルパーさん）への期待は益々高まっています。2004年に宮崎市内に開設された「かあさんの家」は、主婦であった市原氏が認知症や不治の病があっても高齢者が地域で安心して最期まで暮らせる新しいスタイルのケアを実践し、現在4軒を運営しています。そこには訪問介入する多職種から信頼され活躍する介護福祉士の姿があります。

私達の重要なパートナーである介護福祉士をまとめるお立場から、余命が限られた高齢者をケアする「心と技」を伝えて頂きたいと思います。

編集後記：歴史は「疫病」の恐ろしさを伝えており近代ではインフルエンザが主役です。世界的大流行であるパンデミックは世界的に猛威をふるった1918-19年のスペインインフルエンザ、1957-58年アジアインフルエンザ、1968-69年香港インフルエンザ、2009-10年のH1N1新型インフルエンザと続き、私達は過去を教訓により良い対策の実践が求められています。
今回から草加八潮地域連携呼吸器研究会（SYRC-R：シルク・アール）は新たに草加保健所にも共催して頂く事になりました。多職種の交流の場として、お互いの職種の課題を学びあう場として、事業所の管理者の方には所属スタッフにも幅広くご参加を促して頂き、患者・利用者さんを支えたいという共通の思いで更に結びつきを深めて頂きたいと願っています（謙）。

第7巻　第2号　発行日2013年11月20日

草加八潮地域連携呼吸器研究会（SYRC-R）

ハイライト：

2009年の新型インフルエンザでは世界で最も死亡率を低く抑えた我が国の医療システムですが、今年の春に中国で流行したH7N9の他にも東南アジアなどでくすぶるH5N1など常に警戒が必要です。毎年冬に流行するインフルエンザを正しく制御することで、将来の新たな事態にも影響を小さくすることができます。今回はインフルエンザ診療の第一人者である防衛医大の川名先生にご講演頂くと共に、獨協医科大学の感染対策実務を担い今夏越谷病院教授に就任された福島先生、および草加保健所所長の藤本先生にもお知恵を拝借し、施設や在宅患者のインフルエンザ対策を考えます。

目次：

獨協医科大学付属越谷病院呼吸器内科に福島康次教授が7/1に就任　p1
講演：インフルエンザ最新の話題
防衛医科大学校教授
川名　明彦先生　p2
高齢者、介護・同居者全員にインフルエンザワクチン　p2
感染症学会より「インフルエンザ病院内感染対策の考え方（高齢者施設を含めて）」　p3
パネルディスカッション
「2013インフルエンザ　予防と対策～施設や在宅患者～」　p3
第23回呼吸ケア・リハビリテーション学会報告　p3
埼玉県の全面禁煙・空間分煙実施施設の認証制度のお勧め　p3

獨協医科大学付属越谷病院の呼吸器内科に福島康次（やすつぐ）教授が今年7月1日就任

福島教授は昭和59年に獨協医科大学を6期生として卒業。自身が小児期に気管支喘息で苦しんだ経験から気管支喘息の病態生理を解明しようと思い、当時喘息の研究・診療で優れていた牧野宗平名誉教授が主宰する同大附属病院アレルギー内科に入局した。昭和62年伊大学院へ進学し「気管支喘息の病態解明」を旗印として本格的に基礎研究を始め、平成3年に大学院医学博士課程を修了。平成10年には臨床講師となり、その活躍の場をさらに広げた。

平成11年には福田健前教授のもと呼吸器・アレルギー内科へと講座名が変更となり、名実ともに呼吸器疾患を診療、教育、研究する講座として飛躍の時代を迎え、診療科運営を病棟医長として支えてこられた。さらに平成16年には学内准教授を歴任し、このたび獨協医大越谷病院呼吸器内科教授に就任された。

診療においては気管支喘息、肺癌、びまん性肺疾患、慢性閉塞性肺疾患、膠原病性肺疾患、呼吸器感染症、HIV診療など多岐にわたって診断・治療にあたってこられ、特にびまん性肺疾患の診断においては、140例を超える胸腔鏡下肺生検を呼吸器外科とのタイアップのもとで施行。病理組織学的根拠に基づいた診断と治療を実践することで、びまん性肺疾患の診療に成果をあげてこられた。

就任後、福島教授は呼吸器内科医局の運営方針として大きく5本の柱を表明。1番目として地域医療のさらなる発展充実、2番目として呼吸器外科との相互協力による超講座的な医療提供、3番目として呼吸器で大きなウェイトを占める肺癌に対する最新医療の提供、4番目として人間味あふれる優れた内科医の育成、5番目として有能な専門医・指導医の育成ならびに臨床と研究の両立の5つの方針を掲げた。さらに「明るく活気があり、しかもアカデミックな医局をめざし、そのリーダーとして誠心誠意尽力し獨協医科大学のさらなる発展に寄与したい」と抱負を語った。

（獨スポ2013年11月10日号より転載）

講演： インフルエンザ最新の話題
～新型インフルエンザを含めて～

防衛医科大学校
感染症・呼吸器内科教授　　川名　明彦　先生

感染症・呼吸器内科

診療内容
　呼吸器疾患および感染症の診療を担当しています。咳、痰、発熱、呼吸困難、胸痛、血痰などの症状がある方は、当科を受診してください。
　血液や痰の検査、胸部レントゲン写真撮影の他、必要に応じてCTスキャン、RI（核医学）検査、呼吸機能検査、気管支鏡検査、超音波検査などを実施し、迅速かつ正確な診断を行います。その診断をもとに、十分な根拠と経験に基づく適切な治療を行います。診療内容についてはわかりやすい説明を行い、ご理解をいただいて実施するように心がけています。病状により、呼吸器外科をはじめ、消化器内科、腎臓内科などそれぞれの専門診療科と連携しつつ、最善の医療を提供いたします。
特長
　呼吸器内科を中心として感染症全般ならびに感染制御（院内感染対策）までを幅広くかつ専門的に守備範囲としているのが当科の特徴です。
　また、防衛省の病院として、SARS（重症急性呼吸器症候群）、鳥インフルエンザ、新型インフルエンザなどの新型感染症や輸入感染症、バイオテロなどの国民の脅威となる種々の疾患にも取り組み、その知識と経験を診療にフィードバックできる点も特徴です。

（HPの診療科紹介より抜粋転載）

今年も自治体毎に65歳以上のインフルエンザ予防接種 特に病弱な高齢者を抱える同居家族には全員接種を！

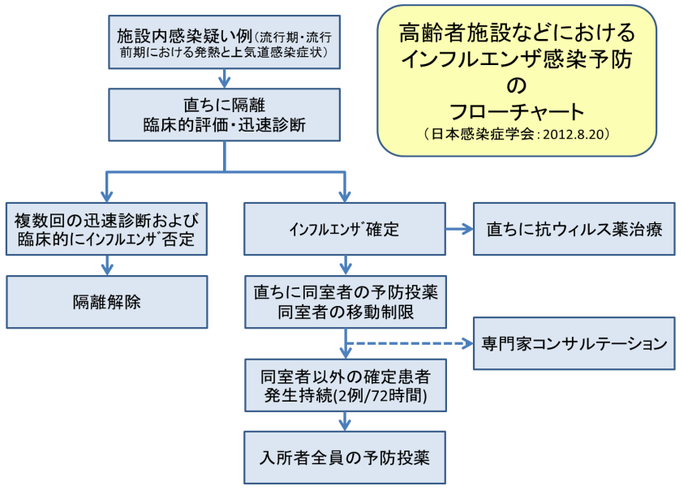
「インフルエンザに罹ったことがないのでワクチンはしなくていい」とか「ワクチンを接種してもインフルエンザに罹ったのでワクチンは接種しても無駄」という話を日頃よく患者さんやご家族から伺います。
　インフルエンザは感染しても症状が乏しい不顕性感染があり、公衆衛生上は集団の大多数がワクチンを接種しないと流行を抑制できないことがわかっています。また、ワクチンを接種すれば重症化を抑制できるとも言われています。高齢者を守るために関わる全ての方に接種をお願いします。

日本感染症学会が「インフルエンザ病院内感染対策の考え方について（高齢者施設を含めて）」を提言

一般社団法人 日本感染症学会

我が国のインフルエンザの診断と治療は最も進んでいるが、予防面では改善の余地が大きい

　日本では予防投薬が保険診療適応外であることが足かせとなって実際に投与する機会を逸し、施設全体に感染が拡大し終息の為に多大な労力とコストを要する事例が後を絶ちません。特に介護系の施設では医師が管理者ではないのでお困りのケースが多いようです。
　日本感染症学会は昨年2012年8/20に表記の提言をまとめました。筆者（新）はかつての勤務先の付属施設長に流行シーズン前にインフルエンザへの備えを直接アドバイスしたにもかかわらず、施設内でアウトブレーク（死亡1例）をきたし、結果的にお互いのコミュニケーションに課題があったに違いないという、非常に苦い教訓があります。
　組織防衛として、流行前のインフルエンザワクチン接種、流行時の患者の見分け方、暴露後タミフルやリレンザの処方などが添付の資料に詳しく記載されています。わからないところがあれば是非相談して下さい。



パネルディスカッション
2013年インフルエンザ 予防と対策　～施設や在宅患者を中心に～

　ギリギリでアンケートやヒアリングをお願いしてますが、その都度皆さんには快くご協力を頂き本当に有難うございます。今回、川名先生の他に獨協医科大学本院で感染対策チームの実務経験をお持ちで今夏獨協医科大学付属越谷病院呼吸器内科教授として赴任された福島康次先生と地域の公衆衛生のスペシャリストである草加保健所の藤本眞一先生にパネリストになって頂きました。事前アンケートの結果をご紹介すると共に、フロアの皆さんからのご質問やご意見を是非承りたいと思います。宜しくお願いします。

第23回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 in 東京（2013年10月）

こやぎ内科山洞院長の講演「どこまで出来るか そこまでやるか ある開業医の@ホームベンチレータ」で座長をしました

　SYRC-R の講師として「ALS の在宅療養」「クラウドを用いた情報連携」で皆様にも馴染みのある、高崎市のこやぎ内科ですが、このたび山洞善恒院長が表記の演題でセミナー講師として熱弁をふるわれて、地域での在宅呼吸器管理への取り組みや今後の展開を示されました。草加内科呼吸ケアクリニック新謙一は座長として、示唆に富む貴重なお話に関し、全国各地で活躍する先生方との活発な討論のお手伝いをさせていただきました。

「埼玉県全面禁煙・空間分煙実施施設認証制度」についてのお知らせ

　埼玉県では表記の認証制度を平成16年7月から開始しています。この制度は、全面禁煙等を行っている県内の施設管理者からの管轄保健所への申し込みに基づき、認定書やステッカー交付を行うものです。今後、飲食店や各職場等において、受動喫煙対策が進められるよう創設した制度ですので、草加保健所からも積極的な活用のお願いを頂いております。
　みなさんの勤務先で認証を受けていない施設があれば是非お勧めします。